

道博協ニュース

第36号

発行所 北海道博物館協会
事務所 札幌市厚別区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

北海道博物館協会三十周年記念 ・第三十回北海道博物館大会

終了する

平成3年度の北海道博物館開拓記念館、副会長 岩崎誠一（アイヌ民族博物館）、金子民男（市立旭川郷土博物館）、佐藤修一（道立近代美術館）、澤四郎（釧路市立博物館）、理事 青木隆夫（夕張市石炭博物館）、大原利夫（北網圏北見文化センター）、

開会式、ついで十時過ぎからの総会では平成2年度事業報告、同会計収支決算報告、および会計監査報告がなされ共に承認をうけ、ついで平成3年度の事業計画、会計収支予算案がいずれも原案どおり可決された。また、平成4年度の第三十一回大会は、宗谷管内の浜頓別町において開催されることに決定された。ちなみに、この地域での開催は、第十二回の稚内市以来です。十九年ぶりになります。

さらに本年度は、協会役員改選大会となり次の方々が満場一致で承認されました。

会長 渡邊左武郎（北海道

開拓記念館）、副会長 岩崎誠一（アイヌ民族博物館）、金子民男（市立旭川郷土博物館）、佐藤修一（道立近代美術館）、澤四郎（釧路市立博物館）、理事 青木隆夫（夕張市石炭博物館）、大原利夫（北網圏北見文化センター）、金田壽夫（札幌市円山動物園）、木村繁（市立函館博物館）、黒崎康雄（浦河町郷土博物館協議会）、栗原弘茂（小樽市博物館）、佐藤一夫（苫小牧百年記念館）、佐藤順博（滝川市美術自然史博物館）、沢田静憲（江差町郷土資料館）、長井宣親（札幌市青少年科学館）、保田信紀（大雪山国立公園層雲峡博物館）、矢野牧夫（北海道開拓記念館）、監事 及川壮一（北海道開拓の村）、今野敬吾（留萌市海のふるさと館）。なお、この後に学芸職員部会総会により選出された金盛典夫（斜里町立

知床博物館）、土屋周三（小樽市博物館）の両氏を理事に加えた二十二名が新たな役員となった。

ついで、北海道博物館協会表彰規定にもとづく第一回表彰規定にもとづく第一回表



この後、日本博物館協会専務理事 毛利正夫氏より「日本における博物館の現状と課題」と題した特別報告をいただき午前の部を終了した。

午後一時より「環境問題と博物館」のテーマで、北海道大学教授 伊藤浩司氏より、今後の博物館活動の方向についても発表される内容の講演を拝聴した。続く二時三十分からのシンポジウムは「21世紀をめざす博物館・園のあり方をさぐる」のテーマで杉山光二（苫小牧市科学センター）、金田壽夫（札幌市円山動物園）、鈴木正實（北海道立近代美術館）、大原利夫（北網圏北見文化センター）の諸氏より提言をいただき、これをもとに討議が深められた。

彰式に移り、永年にわたり地域博物館の活動を支えてこられた、遠藤利雄（釧路市）、高桑華夷治（斜里町）、四倉太郎（函館市）の諸氏および学校博物館で顕著な実践活動を展開されている札幌市立藻岩小学校の三氏・一団体が受賞の栄誉に輝かれました。

（事務局）

第三十回北海道博物館大会に参加して

昭和三十七年函館市において第一回大会が開催されて以来、三十回目を数える記念すべき大会が七月二十三・二十四の両日、「二十一世紀をめざす博物館・園のあり方をさぐる」というテーマで苫小牧市で開催された。

初日はあいにくの雨模様にもかかわらず、会場となった苫小牧市文化会館には、全道各地の館・園などから多くの関係者が集まり、ロビーでは開会までのわずかな時間のなかで、久しぶりに会う面々との日頃のご無沙汰を詫げる挨拶、情報交換などが行われ、定期的に博物館大会はスタートした。

開会式、総会ののち、日本博物館協会の毛利正夫専務理事による「日本における博物館の現状と課題」をテーマとした特別報告が行われ、中教審の答申、生涯学習機関としての博物館についての話があった。ここまでは例年どおりさわめて順調に進行され、い



つものこと……といった感じで参加していたのは私一人であろうか。

記念撮影・昼食のあと、午後からは最近注目されている問題のひとつ、「環境問題と博物館」について、伊藤浩司氏による講演が行われた。環境とは何か、環境破壊とは何かというところから、将来に向けた博物館のあるべき姿、望まれる体制・課題について論じられた。博物館に籍を置く自分のなすべきことはもちろん、一人の人間としてどのようにこの問題をとらえるのかを考えさせられた講演であった。

若干の休憩ののち行なわれた、シンポジウム「二十一世紀をめざす博物館・園のあり方をさぐる」は、四人の提言者による各館・園の活動内容と問題点・課題に関する提言と、これに対する質疑応答の形ですすめられた。いずれの提言も、日頃の活動のなかから感じ取られる問題点を中心として論じられ、興味を引く内容であった。これらは、地域社会あるいは利用者のニーズの変化をいかにキャッチし、対応し、反映させるかが最も大きな課題となっているように受け止められた。

このなかで、苫小牧市科学センター杉山光二氏の提言にあった、講座・教室の出張、親が理解して子供に説明できるようにするプログラムの実施、また、道立近代美術館鈴木正實氏の、地域で何をなすべきかを顕在化できる「地域学」の確立などは、とくに耳に残った提言であった。

司会の手際よきから、スムーズに進行し、ほぼ時間どおりに終えることができた。

しかし、いつのシンポジウム・セミナーなどに出席しても思うことであるが、質疑・応答の延長戦が実施できないものであろうか。もともと、様々な制約のなかでスムーズに会を進行しなくてはならない主催者の苦勞も十分に承知のうえではあるが。

翌二十四日は天候も回復し、苫小牧市博物館をはじめ、オープン間もない、苫小牧西港、勇弘史跡群、静川遺跡などを見学し、よく整備された新しい施設の多さに今更ながらに驚かされた。

最後に、今大会がたいへんよく組織化されたスムーズな運営で、無事に全日程を終えることができたのも、大会事務局の方々はもとより、開催地の苫小牧の皆様のおかげ、なご苦勞があったから、あらためて皆様に厚く感謝申し上げます、雑駁な感想文を終えたいと思います。

また、年に一度、この会でしか顔を合わせない方々も多く、各地の各館・園の情報交換や近況報告が盛んに行なわれ、所定の時間は瞬く間に過ぎ去った。このあとさらに、個々の情報ネットワークの充実をはかるべく、夜の街へと向うものが多かったことは言うまでもあるまい。



午後六時二十分からは、会場をホテルニューオーロジに替え、懇親会にぎやかに開催され、中程で披露された郷土芸能も会に花を添えてくれた。

帯広百年記念館

学芸員 北沢 実

館 園 紹 介

北海道立北方民族博物館

東はグリーンランドのイヌイト(エスキモー)から西はスカンディナヴィアのサミ(ラップ)まで、ひろく北方の文化を紹介する博物館が、今年二月網走に誕生しました。

日本は、先史時代からさまざまな周辺地域との文化接触の歴史のなかで、北方ユーラシアと密接なつながりを持ち、とくに北海道は北方諸文化とのかかわりにおいて重要な位置をしめていました。また広く世界的に見ると、北方への人類の進出は単に空間的な拡大ばかりでなく、寒冷な自然環境に適應して生活するために、新たな文化をつくりだす必要がありました。北方諸民族は、厳しい自然のなかで限られた資源を有効に利用し、豊かな文化をつくりあげてきた人たちといえます。

北海道立北方民族博物館は、北方という共通する条件をもつた地域の民族に視点をもつ、世界的にみてもユニークな博

物館として、多くの方々には北方文化を紹介することを目的としています。

「時間と空間を超えてきた資料が北の文化を話しはじめ」この解説が始まる常設展示では、スカンディナヴィアのサミ、シベリア諸民族、アイヌ、アリュート、イヌイト、インディアン諸族などの衣食・住、精神文化、生業、遊び、子育てなどに関する実物資料や映像・音声資料等を展示しています。とくに、映像資料は一二ヶ所に配置されたモニターをとおして、生き生きとした北方の人びとの生活を伝えてくれます。また、一

八世紀のグリーンランドに暮らすイヌイトの一年間の生活を紹介するマジックビジョンもあります。

さらに、七―一三世紀に北海道オホーツク沿岸にあらわれた、北方的要素を多分に含んだオホーツク文化を中心に、北方民族の文化を歴史的に位置づける上で重要な先史文化の資料も展示しています。

常設展示のほかに、特定の民族や地域、物質文化に焦点をあてたテーマで特別展を年二回開催しています。八月に「シベリアのトナカイ遊牧民ネネツ展」を終え、次回は二月八日より「アイヌ文化にみる狐と魚」を開催予定です。普及活動事業としては、北方諸民族についてより理解を深めていただくために、講演会、講座、講習会を年一二回行っています。国内の研究者、当館学芸員を講師とし、さまざまな角度から北方の文化を考

も合せて行っています。今年度は、先史に関する調査として、湧別町川西でオホーツク文化の竪穴住居跡の発掘を、また資料収集では北米のイヌ



イト、インディアン諸族などを中心にシベリア諸民族を含めて、実物資料や映像資料を収集しています。

国際的な事業として国内外からパネラーを招いて北方民族文化シンポジウムを開催しています。今回は一月六、七日に「定住と移動」をテーマに開催されます。

北方民族博物館は開館してまだ一年足らずであり、ようやく歩み始めたところで、今後は、来館者のニーズに

えるサービスの充実や博物館を支援する層を厚くする努力が必要と思われます。また、世界的にみてもユニークな博物館として、調査研究、資料収集活動のより一層の充実を目指していきたいと考えます。

北海道立

北方民族博物館案内

所在地・〒〇九三 北海道網走市字潮見三三三―一
電話番号・〇一五二―四五一三三八八

開館時間・九時三〇分―一時三〇分

休館日・月曜日、祝日の一部

一二月二九日―一月三日

入館料・一般二五〇円(二〇〇円)、高校、大学生八〇円(五〇円)、小、中学生五〇円(三〇円)

* ()内は一〇名以上の団体の場合

交通案内・JR網走駅より網走バス天都山線で約二分北方民族博物館前下車、またはタクシード約一〇分

(北海道立北方民族博物館

学芸員 佐々木 享)



館 園 紹 介

北海道立オホーツク

流水科学センター

当センターは、流水や海洋に関する科学的知識を一般の方に解りやすく楽しく学んでいただくとともに、流水に象徴されるオホーツク圏域の自然と生活文化に対する理解を深めていただくことを目的に、オホーツク沿岸のほぼ中央に位置する紋別市に平成三年二月開設されました。

名称が示しますとおり北海道立の施設ですが、管理運営につきましては、財団法人オホーツク生活文化振興財団(理事長 上田恒夫)が道からの委託を受け行っております。当センターの置かれた紋別市には、日本における流水研究の中心である北海道大学低温科学研究所付属の流水研究施設があり、また、当地では、一九八六年以来毎年二月に、世界各国の流水研究者が一堂に会するなかで北方圏国際シンポジウムが開催されております。



このように、「流水研究のメッカ」ともいえる紋別市に当センターが設置されたことは、意義深いことといえましょう。当センターは、紋別市の市

ホールとなっており、オホーツク沿岸の四季の変化や流水のもつダイナミックな迫力を直径一五メートルの大型球面スクリーン全体に臨場感溢れる画像で展開するシステムとなっており。

展示室は、メインの展示室、流水観測室、流水ブレイランド、展示プラザの四つのコーナーに分かれております。メインの展示室では、「オホーツクの科学」、「水の科学」をテーマに、オホーツク海が凍りつく理由、オホーツク海の生成過程や流水の誕生から消滅するまでの過程などを様々な角度からとらえ、立体模型や映像装置を駆使して紹介してあります。

流水観測室は、現在実際に行われている流水観測を来館者にも疑似的に体験していただこうとするコーナーで、TVカメラによる目視観測、人

街地から東に車で二〇分、毎年流水のシーズンには、前浜全体が流水に覆われる元紋別地区の海岸に建てられております。鉄筋コンクリート三階建て(一部地階)延べ二、七〇〇平方メートルの建物は、全天候映像ホール、展示室、厳寒体験室、多目的ホール、会議室、一部管理部門等に分けることができます。

全天周映像ホールは、道内唯一のアストロビジョン専用

水の結晶のカレイドスコープ、雪と氷のQ&Aなど、雪や氷を使った遊びのコーナーです。厳寒体験室は、年間を通して、氷点下二〇度に温度設定した室内に約二〇トンの本物の流水を展示し、来館者にオホーツク圏の冬の厳しい寒さや流水を真夏にも体験していただくとするコーナーです。



また、体験室内には、様々な氷の薄片を偏光板装置の中に置き、結晶構造の違いなども観察していただけるようになっています。

こうした常設展示のコーナーのほか、流水科学普及事業として、講演会、映画会や少年科学教室の開催などテーマ、内容、対象等を限定した各種

の事業を行っております。さらに、調査研究事業としては、各種資料、情報の収集を図るほか、流水に関する相談コーナーの開設や流水研究グループとの連携を図るなど、地域における流水情報のネットワーク化に努めております。

北海道立オホーツク

流水科学センター案内

所在地

紋別市元紋別一

番

六号

電話番号・〇五八二三五四〇〇

開館時間・九時三〇分ー一六

時三〇分

休館日・月曜日、祝日の翌日、

年末・年始(二月二十九日ー

一月三日)

入場料・一般二五〇円(二〇

〇円)、高・大学生八〇円(五〇

円)、小・中学生五〇円(三〇円)

(団体一〇人以上括弧内料金)

(全天周映像ホール入場の

場合別途同料金)

入場料免除規定があります。

北海道立オホーツク

流水科学センター

事業課長 平戸 繁

北海道博物館略史 (5)

(8) 函館県第二博物場の開設

明治十五年二月、開拓使が廃止となり、北海道に三県が置かれ、三月に函館県が開庁されると、函館仮博物館も函館県に移管された。県の勸業課農務係が博覧会・共進会・公園等と共にこの仮博物場の事務をも管掌することになった。

この年は、従来通り四月から開場し、八月には、東京仮博物館から移された資料の内、近藤重蔵がエトロフ島のアト

既設の仮博物館より玄関の部分が広い。土台は硬石、横下見板張、白ペンキ塗で、軒高一七尺、軒出三尺、勾配六寸、窓は丸形造上げ卸窓で縦七・五尺、幅三・五尺であった。この建物も既設の仮博物館と共に函館公園内(市立函館博物館に隣接)に現存し、昭和三十八年七月に北海道指定有形文化財となり、現在に至っている。

既にふれたように、この仮博物館には、十四年に東京仮博物館から多数の陳列品が引継がれたが、陳列場が狭いため、その一部が公開されたに過ぎなかった。そこで、函館県では新たに博物館を建設することになった。

函館県時代の第一、第二博物場に関する記録は乏しく、その運営の実態は明らかでないが、明治十八年五月中の縦観者は六、一六二人(有料五、二七五・外国人一三・無券八

工事は明治十六年七月に着手し、八月に完成したが、内部の陳列を終え開場式が挙行されたのは、約一年後の十七年八月であった。工費は一、五二〇円である。

明治前期の北海道の博物館の動向の中で、特徴的なことの一つに、外国人の貢献があったようである。

(9) 博物館と外国人

明治前期の北海道の博物館の動向の中で、特徴的なことの一つに、外国人の貢献があったようである。

この建物は、母屋が木造平屋建寄棟造桁葺で、桁行七間、梁間四間半、建坪三一・五坪、これに二間四方の玄関が付き、総建坪は三五・五坪である。

また、札幌農学校博物室の開設および資料収集にあたっては、ウイリアム・S・クラーク、デイビッド・ベンハロウ、ウイリアム・ホイーラー等のアメリカ人教師が指導的

この建物は、母屋が木造平屋建寄棟造桁葺で、桁行七間、梁間四間半、建坪三一・五坪、これに二間四方の玄関が付き、総建坪は三五・五坪である。

また、札幌農学校博物室の開設および資料収集にあたっては、ウイリアム・S・クラーク、デイビッド・ベンハロウ、ウイリアム・ホイーラー等のアメリカ人教師が指導的

この建物は、母屋が木造平屋建寄棟造桁葺で、桁行七間、梁間四間半、建坪三一・五坪、これに二間四方の玄関が付き、総建坪は三五・五坪である。

また、札幌農学校博物室の開設および資料収集にあたっては、ウイリアム・S・クラーク、デイビッド・ベンハロウ、ウイリアム・ホイーラー等のアメリカ人教師が指導的

この建物は、母屋が木造平屋建寄棟造桁葺で、桁行七間、梁間四間半、建坪三一・五坪、これに二間四方の玄関が付き、総建坪は三五・五坪である。

また、札幌農学校博物室の開設および資料収集にあたっては、ウイリアム・S・クラーク、デイビッド・ベンハロウ、ウイリアム・ホイーラー等のアメリカ人教師が指導的

この建物は、母屋が木造平屋建寄棟造桁葺で、桁行七間、梁間四間半、建坪三一・五坪、これに二間四方の玄関が付き、総建坪は三五・五坪である。

また、札幌農学校博物室の開設および資料収集にあたっては、ウイリアム・S・クラーク、デイビッド・ベンハロウ、ウイリアム・ホイーラー等のアメリカ人教師が指導的

この建物は、母屋が木造平屋建寄棟造桁葺で、桁行七間、梁間四間半、建坪三一・五坪、これに二間四方の玄関が付き、総建坪は三五・五坪である。

また、札幌農学校博物室の開設および資料収集にあたっては、ウイリアム・S・クラーク、デイビッド・ベンハロウ、ウイリアム・ホイーラー等のアメリカ人教師が指導的



上段左:ケプロン 右:ライマン
下段左:ブラキストン 右:モース

うというのが政府の方針であったが、このような時代の特徴は、博物館の世界にも反映している。既に各博物場の項でもふれているが、ここでもめておきたい。

建築の面では、札幌博物館がポストンの建築師ペイトマンの設計図に基づいて建てられている。

まず、開拓政策の一環として、博物館建設の必要性を説いたのは、開拓使顧問のホルス・ケプロンであった。

このように見ると、当時の北海道の博物館は、多くのすぐれた外国人専門家の指導と協力によってつくられており、全国的にみても、レベルの高い博物館だったのである。

開拓使が開設した東京・札幌・函館の仮博物館に陳列された地質・鉱物標本の中には、ベンジャミン・S・ライマンが採集した資料が多数含まれている。

「北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志」

また、札幌農学校博物室の開設および資料収集にあたっては、ウイリアム・S・クラーク、デイビッド・ベンハロウ、ウイリアム・ホイーラー等のアメリカ人教師が指導的

「北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志」

また、札幌農学校博物室の開設および資料収集にあたっては、ウイリアム・S・クラーク、デイビッド・ベンハロウ、ウイリアム・ホイーラー等のアメリカ人教師が指導的

「北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志」

また、札幌農学校博物室の開設および資料収集にあたっては、ウイリアム・S・クラーク、デイビッド・ベンハロウ、ウイリアム・ホイーラー等のアメリカ人教師が指導的

「北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志」

また、札幌農学校博物室の開設および資料収集にあたっては、ウイリアム・S・クラーク、デイビッド・ベンハロウ、ウイリアム・ホイーラー等のアメリカ人教師が指導的

「北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志」

また、札幌農学校博物室の開設および資料収集にあたっては、ウイリアム・S・クラーク、デイビッド・ベンハロウ、ウイリアム・ホイーラー等のアメリカ人教師が指導的

「北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志」



函館県第二博物場

「北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志」

「北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志」

「北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志」

「北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志」

会大作展」、11・1～11・15

「文化庁現代美術秀作展」、11

・20～11・24「第44回市民総合芸術祭」、11・30～12・8

「チャールズ会北見展」

●美幌博物館・美幌農業館

11月上旬まで 特別展「ふるさと」の作家たち」

●苫小牧市博物館

10・6 見学会「サケ科学館見学会」、11・24 体験教室

「そばがきを作ろう」

●苫小牧市科学センター

11・12月毎土曜「天文教室」、10月「移動天文教室」

●室蘭市青少年科学館

10月「科学技術振興作品展胆振地方展」、同「盆栽展」、11月上旬「菊花展」、同「模型作品コンクール」、11・23「室蘭市小中学校理科研究発表会」

●室蘭市民俗資料館

11月中旬 ふるさと講座「落ち葉焚き」、12月中旬 ふるさと講座「せんべい焼き」、12月下旬 企画展「伝承・和風展」

●類似郷土館

10・10 見学会「類似山道を歩こう会」、10月 特別展「ふ

○江差会場（道南ブロック

学芸員会議）

主催 北海道開拓記念館・北海道博物館協会・道南

ブロック博物館施設等

連絡協議会

後援 北海道教育委員会檜山

教育局・同渡島教育局

・江差町教育委員会

期日 十一月十四日（木）

会場 江差町文化会館

小ホール（檜山郡江差町字茂尻町71番地）

TEL 013951215115

講師 平泉郷土館

館長 荒木伸介

演題 未定

参加申込先 江差町郷土資料館

〒043 檜山郡江差町字本町271番地

TEL 013951211059

○旭川会場（道北ブロック

学芸員等会議）

地区博物館等連絡協議

会

後援 北海道教育委員会上川

教育局・同留萌教育局

・宗谷教育局・旭川市

教育委員会

期日 十一月十五日（金）

会場 旭川市ときわ市民

ホール（旭川市5条通

4丁目）

TEL 016612315577

講師 松浦武四郎研究会

代表 秋葉 実

「松浦武四郎のみた道

北地方」

・北海道福西高等学校

教諭 中村和之

「中国史料よりみた山

丹交易とアイヌ」

参加申込先 市立旭川郷土博物館

〒070 旭川市4区

1条1丁目

TEL 016615117786

北海道博物館協会・浦河

町立郷土博物館

後援 北海道教育委員会日高

教育局・浦河町教育委

員会

期日 十一月二十八日（木）

会場 浦河町立生涯学習セン

ター（浦河郡浦河町築

地1丁目）

TEL 014621216769

講師 早稲田大学文学部

教授 櫻井清彦

「楼蘭の遺跡に立つて

—シルクロードの調査

から—」

研究協議「道央ブロック博物

館・園のネット・ワー

ク化について」

提言者 苫小牧市博物館

佐藤一夫

参加申込先 小樽市博物館

土屋周三

〒057 浦河郡浦河

町字西幌別27311

TEL 014621811342

○帯広会場（全道ブロック
館長等会議）

主催 北海道開拓記念館・北
海道博物館協会・道東
3管内博物館施設等連
絡協議会・帯広市教育
委員会

後援 北海道教育委員会

期日 十二月三日（火）
～四日（水）

会場 帯広市ステーション・
ホテル（帯広市西2条
南12丁目）
TEL0155-2312188

講師 東京家政大学
教授 伊藤俊夫

「生涯学習と博物館」

研究協議 「博物館とボラン
ティア活動」

提言者 北海道開拓の村
及川社一

北海道立帯広美術館
（未定）

帯広市百年記念館
（未定）

参加申込先

帯広市百年記念館
〒080 帯広市緑ヶ丘2
念館（有珠郡壮瞥町字流之町）、

番地

TEL0155-245352

◇平成3年度全国博物館
大会の開催日程◇

道博協ニュース33号で、平
成3年度に開催が予定されて
いる第三十九回全国博物館大
会の日程・会場につきまして、
下記のようにご案内しました。

期日：平成3年十一月七日
～八日

会場：徳島市
徳島県立博物館

事務局日誌

7・6 第30回北海道博物館
大会における次期開催地探
探を浜頓別町に依頼

7・10 平成3年度アイヌ文
化文化財専門職員等研修会
（9月11日～13日）

7・10 平成3年度日本博物
館協会顕彰候補者の推薦申
請書を加盟各館園に送付

7・11 平成3年度北海道博
物館協会顕彰者へ大会表彰
式への案内状を発送

7・12 平成3年度「社会教
育関係団体概況」に関する
資料を財団法人北海道社会
教育協会へ発送

7・18・19 第30回北海道博
物館大会を苫小牧市におい
て開催

下川町ふるさと交流館（上川
郡下川町西町1046番地）、
北海道電力株式会社泊原子力
事務所原子力PRセンター
（古宇郡泊村大字堀株村字古
川45番1）

（個人会員）矢吹俊男

8・1 役員改選に伴う新役
員へ就任承諾の依頼状を送
付

8・1 横綱北の湖記念館
（壮瞥町）の協会加入申込
書受理

8・1 「91生涯学習フォ
ラム・インほっかいどう」
協賛名義使用の承諾書を同
事務局へ送付

8・6 日本博物館協会へ平
成3年度顕彰候補者の名簿
を提出（規定第一号9名、
規定第4号1名）

8・15 北海道博物館大会、
大会補助金結果報告を北海
道教育委員会へ提出

8・15 北海道博物館大会補
助金収支決算書を苫小牧市
へ提出

8・20 平成3年度北海道博
物館協会・学芸職員部会研
修会（10・24、25）開催の
通知書を各館園に送付

8・23 下川町ふるさと交流
館の協会加入申込書受理

8・27 個人会員矢吹俊男氏
（倶知安町教育委員会）の
協会加入申込書受理

◇会費納入のお願い◇
本協会の円滑な運営のため、
平成3年度の会費の納入を左
記によりお願いいたします。
また、これまでの滞納分に
つきましてもよろしくお願
いいたします。

記

（会費）

団体会員 一五、〇〇〇円

個人会員 三、〇〇〇円

（取扱銀行）
北海道拓殖銀行 新さっぽろ
普通口座 01861
支店 287000

（郵便振替）
小樽 七一二九四一七

◇事務局からのお願い◇
道博協ニュースへの原稿を
募集しております。
各館園の動向、トピックス、
新着資料や展示紹介、各会員
のご意見等をお寄せください。
字数等の詳細については事
務局までお問い合わせくださ
い。

新入会員

期日：十二月九日・十日

会場：東京都
国立教育会館

（団体会員）横綱北の湖記
念館（有珠郡壮瞥町字流之町）、

新入会員

期日：十二月九日・十日

会場：東京都
国立教育会館

（団体会員）横綱北の湖記
念館（有珠郡壮瞥町字流之町）、